



学校給食のサンプルを手にする新栄物産の和田康之社長(左)は胸をなでた。

探訪 都の企業

震災奮闘編

岩手県大槌町の現地駐在員と連絡が取れたのは、東日本大震災発生から四日後だった。駐在員の自宅は沿岸部の高台にあり、津波の難を逃れていた。

現地の避難所から届けられた無事の一報に「とにかく大丈夫」として

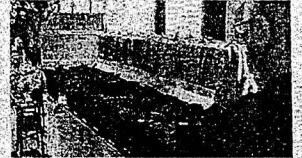
で下ろした。しかし、家族も被災した駐在員に対し、すぐに「業務復帰を」とは頼めない。千葉県市川市の本社で対策に乗り出し

新栄物産(市川市南八幡)

安心・安全 給食に奔走

北地方には、売り上げの約四割に当たる約六十万食の給食を届けていた。東京都信用金庫協会などが主催する優良企業表彰制度で震災前日、東京新聞賞を受賞した。

- ぎょうの紙面
- 大震災関連ニュース
 - ③ 二重債務対策疑心
 - ②⑤ 計画停電グループ
 - ②⑥②⑦ 電力総連を解剖
 - ②⑧ 身元不明遺骨吊う



金石市で骨箱が並ぶ祭壇の前に、身元不明者の合同法要。

- 一般ニュース
- 総合一頁・社会 3・13・28
 - 春の叙勲受章者を発表
 - 総合 7
 - iPhoneドコモ断念

同社は、学校給食向ターなど提携先が被災回復を急いだ。同社では、「地産地消」を掲げ、給食にはなるべく地元食材を使用しているが、被災地では食材が確保できなくなった。そのため、北陸や静岡などの得意先に頼み込み、魚などの

た」と話す。努力が実を結び、岩手県や宮城県内の多くの学校が始まった四月下旬には、まずパンや牛乳の簡易な給食の再開にこぎ着けた。五月上旬からは、ほぼ通常通りの給食を提供でき

るようになった。和田社長には「地産地消の給食を通して、地域とのつながりや風土を子どもたちに実感してもらいたい」との思いがある。子どもたちが、安全で安心な給食を届けるられるの